

穂学



令和4年度

広州日本人学校 学校便り

[No.2]

令和4年4月28日(木)

発行責任者 校長 加藤康徳

「七転八起 ≠ 七転八倒」

広州市における4月の中旬から続いていた防疫強化体制のレベルが下がり、現在は以前の学校生活に戻りました。市内全校一斉休校措置も20日(水)より中学校、25日(月)からは小学校の登校が開始となり、本校においてもやっと全ての子ども達の明るく元気な声が校舎内に響くようになりました。普通ならいるはずの児童生徒がいなかったこの間、例えば1週間とはいえ静まり返った校舎が如何に空虚なものかということに改めて感じました。(私は過去に2校の閉校に関わった時の感覚を思い出しました。)



また、保護者の皆様におかれましては学校再開に向けた全家庭一斉のPCR検査にご協力を頂きありがとうございました。「市内にある学校の子どもとその家族、及び教職員とその家族全員が土日の二日間で検査を実施する」という市当局からの通知により、かなりの混雑が予想された一斉検査ではありましたが、その結果、感染拡大の不安が払拭され月曜日からの登校が再開されました。今後も子ども達の安心・安全な学校生活を保障するためにPCR検査などをお願いすることがあります。どうかご協力の程、よろしくお願いいたします。



この1週間の休校期間はそれぞれがそれぞれの立場で本当に大変な思いをしたことと思います。「子どもは適切な教育を受けることができない、教師は対面ではない配信学習における授業の作成(本校はON-LINE授業ではありません)、保護者は〇〇〇(ご想像にお任せします)」等。

ただ、大変なこともありました。解決していかなければならぬ課題も見えてきました。(これは、幸いなことと捉えていいのかもしれませんが)これらの課題については今後優先順位をつけて改善していかなければならないと考えています。

私の好きな諺・慣用句に「七転び八起き」と「転んでもただでは起きない」という言葉があります。意味は、「人は何回転んでもチャンスはやってくる」「失敗を成功に変える」という意味のようです。

広州日本人学校は海外にある在外教育施設(約95校)の中の一つです。(登記上の正式名称: 広州日本人外籍人員子女学校)日本にある学校とはその設立の経緯や運用の面で異なる部分があります。ですから、これからも想定外の様々な課題がたくさん出てくると思いますが、それでも物事を前向きに捉え、その苦勞から何かを掴み、さらにたくましくなって起き上がり、共に前に進みます。決して「七転八倒」で終わるようなことが無いようにしたいです。

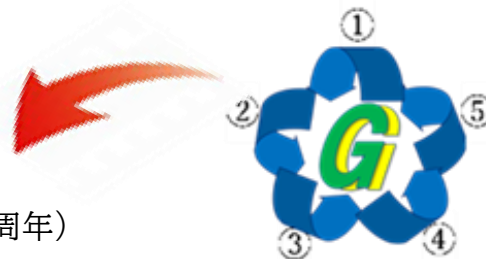


「つながりを未来に実感させる広州日本人学校の創造」とは

※詳細は5月14日（土）の参観日・学校保護者会で説明させていただきます。

（図1）「つながりとは」・・・大切にしたいのは、5つのつながりです。

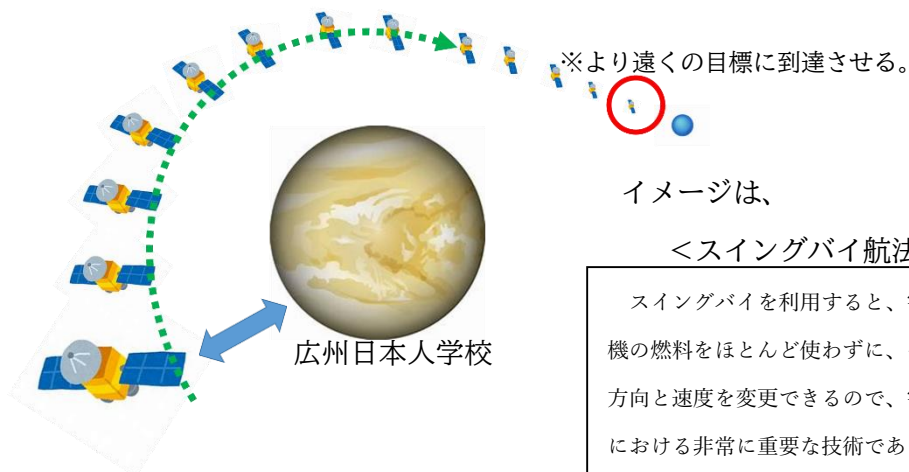
- ① 教師とのつながり
- ② 授業とのつながり
- ③ 子ども同士のつながり
- ④ 保護者・日本人社会とのつながり
- ⑤ 中国とのつながり（国交正常化50周年）



<学校経営エンブレム>

※「G」は広州とゴールの意味

（図2）「未来とは」・・・子ども達がそれぞれ目標とする未来の姿です。



イメージは、

<スイングバイ航法>

スイングバイを利用すると、宇宙探査機の燃料をほとんど使わずに、その運動方向と速度を変更できるので、宇宙探査における非常に重要な技術である。

（図3）「実感とは」・・・実感とは、5つの「学び」の事です。

- 1 広州日本人学校の先生から学んで良かった。
- 2 広州日本人学校の友だちや仲間と学べて良かった。
- 3 広州の地域で学んで良かった。
- 4 広州日本人学校から転学・進学できて良かった。
- 5 広州日本人学校で学んで良かった。

上記の図1, 2, 3の意味を簡単にまとめると、

「**つながり**」を持って、

「**未来**」にこのような「**学び**」を

子ども達が「**実感**」してくれる学校を創るということです。